

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記2

国立市立国立第七小学校

平成26年7月18日 NO.33 (133)

オー君 「花ちゃんは、植物博士（しょくぶつはかせ）だよ。花の色って、どのくらいあるの。」

花ちゃん 「そうね、たとえば、赤・黄・白・青・それから、むらさき色の花もあるわ。」

オー君 「花の色って、一色でないのもあるよね。それに、赤とむらさきの中間（ちゅうかん）の色もあるし・・・花の色というのは、どのくらいあるんだろう。」

花ちゃん 「ほんとうね。それに、花の色というのは、何か意味（いみ）があるのかな。」

モンタ博士 「もちろんあるよ。ただぐうぜんに見えるような花の色でも、それぞれ、ちゃんとした意味があるのさ。自然（しぜん）が作ったものに意味のないものなんてないさ。花の色は季節（きせつ）によって少しちがうよ。」

花ちゃん 「思い出したわ。いつかモンタ博士がお話してくれたけど、春には黄色の花が多いんですよ。」

モンタ博士 「そうだね、木が芽吹（めぶ）きはじめのころは、木の幹（みき）の色などが灰色（はいいろ）やセピア色で、黄色の花が目立（めだ）つんだよ。特（とく）くに、山の木では黄色いものが多いね。」

花ちゃん 「それから、5月から6月ころ、ちょうど初夏（しょか）のころになると、白い花が目立つようになるでしょ。」

モンタ博士 「そうだね、葉っぱの緑（みどり）がこくなると、真っ白（まっしろ）な花は、とっても目立つんだね。」

花ちゃん 「それで、夏から秋にかけては、赤やむらさきの花が多（おお）くなるんですよ。モンタ博士。私、学校の近くでたくさんのオレンジ色の花を見つけたの。それをスケッチしたの。見てくれますか。」

オー君 「うわー。花ちゃん、じょうずだね。やっぱり天才（てんさい）だ。」

モンタ博士 「そのとおりだね。それじゃ、みんなで、花ちゃんの『夏の花』の作品展（さくひんてん）をみることにしよう。」

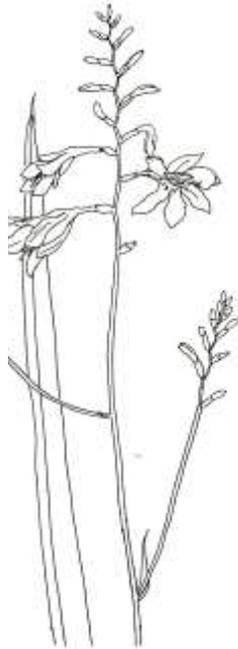
作品展

「夏のオレンジ色の花」

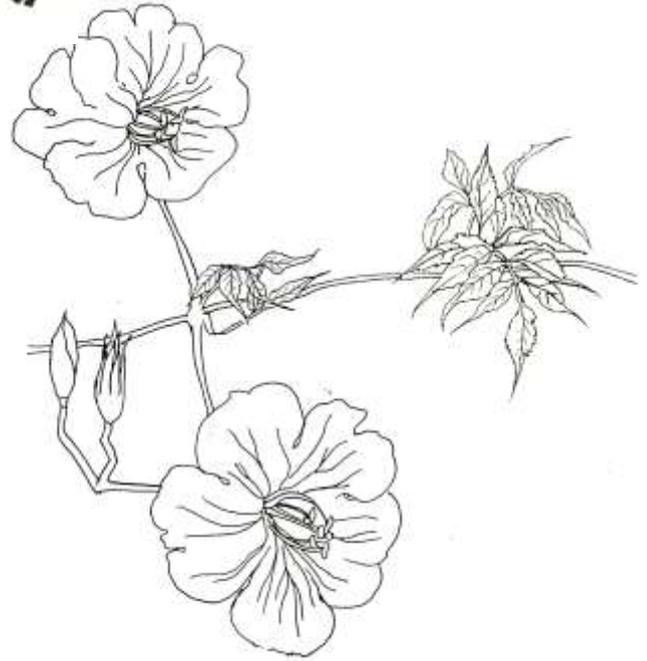
花ちゃん作



ノカンゾウ
(ススキノキ科)



ヒメヒオウギスイセン
(アヤメ科)



ノウゼンカズラ
(ノウゼンカズラ科)

オー君 「花ちゃんの作品展は夏休みの自由研究のようだね。あ！あ！あ！
明日（あした）から待（ま）ちに待った夏休みだ！バンザーイ！」

花ちゃん 「ヤッター！うれしいわー。思いっきり遊びましょう。」

オー君 「おいら、エンジン全開（ぜんかい）バリバリで、夏休みをたくさんおもいきりめちゃくちゃ楽しんじゃうぞ！」

モンタ博士 「二人とも大いに楽しんでくれたまえ。でもね、交通事故（こうつうじ）や病気（びょうき）・けがには気をつけてほしいね。」

オー君 「はい！わかりました。モンタ博士と約束（やくそく）します。交通事故や病気、けがなどぜったいにしません。」

モンタ博士 「そうだね。そのとおり。よろしくたのむよ。小学生の夏休みは、6回しかないんだよ。思いっきり楽しんで。遊びも勉強もお手伝いも、それからプールも読書も自由研究もガンバレ！そして、始業式には元気な顔を見せてね。」